



長門の話題 Topics

住民参加でまちづくりワークショップ開催

長門湯本温泉の未来を考える

2月1日(水)、大寧寺本堂で、長門湯本温泉観光まちづくりワークショップが開催され、湯本地区の住民や旅館関係者など約40人が参加しました。はじめに、「良好な景観形成のためのルールづくり」と題し、風情ある魅力的な温泉街をつくるために必要な景観施策の説明が行われました。



▲地域の将来に向けて、活発な意見が飛び交う

その後、6テーブルに分かれて「恩湯・礼湯の今とこれから」をテーマに、「現状」、「建て替わるときに引き継ぎたいもの、新しく加えたいもの」、「温泉に特徴をつけるアイデア」の3項目について意見交換が行われました。

参加者からは、利用しやすい料金や泉質、情緒ある雰囲気などに満足している一方で、駐車場の狭さや施設の老朽化などが不満点として挙げられ、全体的に恩湯の利用頻度が高いこと、温度や施設の違いから、気候に応じて礼湯を活用していることなどが分かりました。

また、今後の建て替えにあたっては、家族風呂や休憩室の整備、外湯めぐりを想定して、何も持たずに気軽に温泉に入れる工夫や、恩湯と礼湯のコンセプトを決めて差別化を図ることなどの意見が出されました。

学校給食・くじら交流の日

くじら肉を食べて元気に

古式捕鯨のまち長門市と、近代捕鯨のまち下関市が協力し、その歴史の中で育まれた伝統的な食文化を次の世代に継承しようと、学校給食へのくじら肉の提供を行っており、2月3日(金)、両市の小学校で「学校給食・くじら交流の日」が行われました。向陽小学校では、来賓とし



▲くじらの竜田揚げを美味しく食べる児童

て出席した大西市長が「昔からこの地域では、節分にくじらを食べると1年間元気に過ごせると言われています。今日は感謝の気持ちを持って、しっかりと食べてください」とあいさつ。続いて、くじら資料館の早川義勝館長が、「ハクジラ」「ヒゲクジラ」といったくじらの種類や、それぞれのエサの食べ方などの特徴を説明しました。

給食時間になると、ごはんや味噌汁、お味噌汁、ごま和えなどのメニューと一緒に、イワシクジラの肉を使った「くじらの竜田揚げ」が出され、児童は「やわらかくて、しっかりと味がついていておいしい」と感想を話しました。

また、6日(月)には長門大津くじら食文化を継承する会により、市内すべての保育園、幼稚園に鯨肉が提供され、園児らはくじらの竜田揚げを美味しく食べていました。

長門の People

目標は全国制覇、いざ甲子園へ。

早稲田玲生さん

(宇部鴻城高校野球部
／日置上黄波戸)



小学3年生から野球を始めた早稲田さん。日置中学校から宇部鴻城高校に進学し、野球部に入部。初めての寮生活に戸惑いながらも甲子園出場を目標に野球に打ち込んできました。昨年開かれた秋季中国地区高校野球大会で4試合に先発し、優勝に大きく貢献。この優勝により、今年1月、選抜高校野球選手権大会に出場が決定し、甲子園への切符を手に入れました。

の得意な球種はスライダー、打たせてるのが持ち味で、甲子園では完封して勝ちたい。自分を応援してくれる家族らに恩返しができるよう頑張ります」と意気込みを述べる早稲田さん。「大会が始まるまで下半身強化と体力強化に取り組み、投げ込みをして球速を増していきたい」と、大会までの残り期間、さらに練習を重ねています。早稲田さんが出場する第89回全国選抜高校野球選手権大会は3月19日(日)に開幕します。



旬な人

市内中学校で立志式 志を立て、夢に向かう

立志式は、古くから伝わる成人を祝う儀式「元服」にちなみ、14歳になる年に志を立てるものです。2月4日(土)、5日(日)と市内の中学校で立志式が行われました。

4日(土)、三隅中学校で行われた「第46回立志式」では、2年生の生徒41人が、ろうそくを掲げ、「信頼される人になる」「周りを笑顔にできる人になる」「積極的に行動できる人になる」などの「誓いのことば」を大きな声で述べました。式が終わると、プロ



▲ろうそくを片手に志を述べる (三隅中)



▲生徒にメッセージを送る内田さん (仙崎中)

サッカークラブ「レノファ山口」の石原正康GMの記念講演が行われ、夢や目標を持つことの大事さなどが生徒に伝えられました。この日は、仙崎中学校でも立志式が行われ、2年生の生徒42人が順に「誓いのことば」を述べた後、同校の卒業生でもある海洋ジャーナリスト、内田正洋さんの記念講演「海に生きる」が行われました。また、5日(日)には深川中学校でも立志式が行われ、2年生114人が誓いを立てました。